

「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラム評価

The Program Evaluation of Seoul English Village Pungnap Camp

カレイラ松崎 順子*
Carreira Matsuzaki Junko

Abstract

In South Korea, numerous children are sent to foreign countries for English education. To create English-immersion environments, English villages have been built in South Korea. This study investigated how students who participated in programs of Seoul English Village Pungnap Camp evaluated the programs. Participants were 219 South Korean elementary school students who participated in programs of the Camp during winter vacation from December 2011 to February 2012. The results revealed that many students found the programs enjoyable and useful for their English learning. They responded that they enhanced their interest in English by participating in the programs.

I. はじめに

韓国の初等学校では、1997年に初等学校3年生から英語を正規教科として取り入れており、初・中・高等学校における教育課程の確立、国定教科書や教材の開発、充実した教員養成、研修制度など、周到な準備のもと英語教育が導入された（樋口2005）。そのような中、英語を習得するために海外に留学する児童が増え始めたが、海外に留学できるのは一握りの裕福な家庭のみでそれができない多くの家庭との間に英語力の格差ということが問題となっていき、このような状況への対策として、韓国国内に英語村などの英語体験施設が設置された（カレイラ2012）。英語村は留学に行くことのできない子どもが「擬似外国体験」をできるように、施設内では出入国管理事務所を通過して「入国」し、英語で様々な活動を体験できる施設である。このような韓国の英語村ではどのような授業が行われており、また、参加した児童は英語村をどのように評価しているのであろうか。今まで英語村に関する研究は、韓国ではいくつか行われているが（Im 2011; ソン2007 etc.）、日本においては樋口・木村（2010）や木村（2010）が英語村の現状と展望を論じているが、韓国の英語村のプログラム評価などを行った研究は今まで行われていない。ゆえに、本研究ではソウルにある英語村の1つである『ソウル英語村プンナプキャンプ』におい

* 東京経済大学現代法学部准教授、Associate Professor, Faculty of Contemporary Law, Tokyo Keizai University
E-mail:junko.carreira@gmail.com

て質問紙調査を実施し、これらのプログラムに参加した児童がどのように評価しているのかを明らかにすることにした。

II. 早期英語留学と教育格差

現在韓国では、国の教育政策の一つとして英語教育が重視されている。英語教育が国家政策となった背景には、1980年代からの民主化の流れの中、1993年にはそれまでの軍部出身の大統領ではなく文民出身の金泳三政権のもと、国家目標としてグローバリゼーションへの対応、すなわち「世界化政策」が掲げられたことに端を発する。さらに、1998年の国際通貨基金（IMF）経済危機下で誕生した金大中大統領は、IMF体制を受け入れることによって経済の建て直しと国内市場の開放、IT技術の確立を実施し、教育面では世界化に備えた英語教育の徹底化、国際社会に対応できる人材の育成、留学の自由化に重点をおいた教育政策を推進した。このように、金泳三、金大中両政権の国家政策によって英語教育が重視され、最も力を入れている教育政策の一つとなっていったのである（田中2008）。

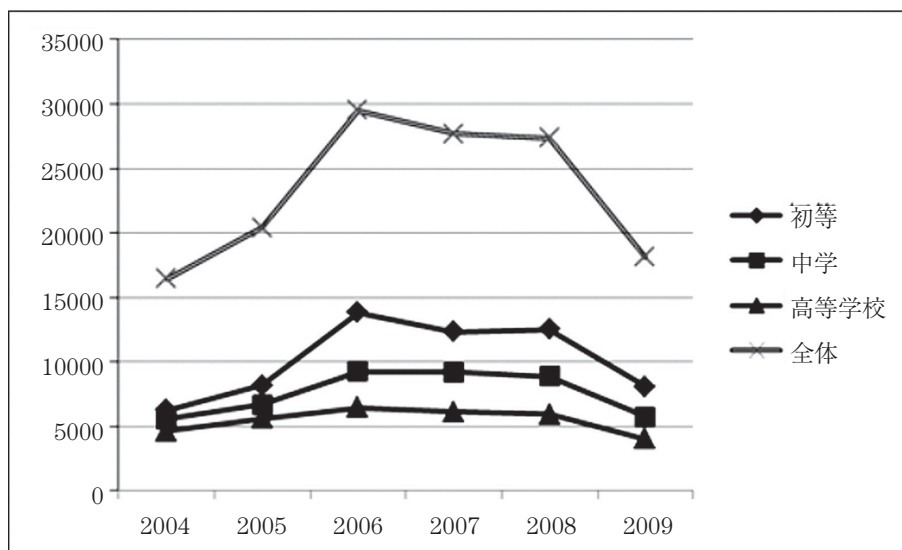


図1 2004～2009年度早期留学生出国現況（チェ2011より引用、筆者翻訳）

特に、韓国が1994年に「世界貿易機関」(WTO)に参加したことをきっかけに、「初等学校」における留学ブームが起こった。図1からも明らかなように、留学を事由として海外に出国した初・中・高等学校の生徒数は2006年まで年々増え続けた¹。そのような中、海外で英語を学ばすために、妻子を海外に住ませ、父親は韓国に残って生計を支えるという「キログ・アッパ」と呼ばれる父親が家族別居問題の象徴的存在として注目を集め、社会問題となってきた。キログ・アッパについて李（2007: 217-218）は以下のように説明している。

¹ 2009年に早期留学生数が極端に減少しているが、これは2008年のリーマン・ショックの影響であろうと思われる。

「キログ・アッパ」という用語がいつから使われるようになったのかは確かではないが、韓国政府が初・中・高等学校の在学生の早期留学制限措置を廃止した1999年以降、父親は（経済的な理由）で韓国に残って生計の責任を負い、母親は留学する子どもの世話のために同行する家族が増えることに伴い、マスコミなどで使われるようになった新造語である。

特に、「キログ・アッパ」の孤独死や自殺など、つらい生活実態が明らかになり、早期留学に対する批判が高まっていった（小林2009）。また、実際に早期留学に行けるのは一握りの児童であり、多くの児童は経済的にそのような余裕もないため、英語教育における格差というものが増え広がっていった（カレイラ2012）。

III. 英語村

上述したような英語教育における格差が広がる中、韓国国内で留学と同じような状況を作り出し、廉価に疑似留学が体験できる機会を与えようということで設立されたのが英語村である。英語村の設立の経緯を樋口・木村（2010:136）が以下のように説明している。

2002年6月の統一地方選で京畿道知事に当選した孫鶴圭（ハンナラ党＝当時）の公約の一つが「英語村建設」であった。孫鶴圭は「英語村は文字通りすべての場所で英語だけを使う村であり、海外研修の代案になりうる」（『京郷新聞』2002年6月6日付）と述べ、当選後、すぐに英語村設立に向けて始動している。……ところで、この統一地方選は、当時の国政における金大中大統領の人気失墜から、野党であったハンナラ党が地滑りの勝利を収めたものであり、その意味では、英語村設立という公約が孫鶴圭の当選を左右したわけではないと考えられる。むしろ、金大中政権周辺の相次ぐスキャンダルや政権末期におけるレームダック化が進み、野党に追い風が吹いていたなか、英語村は選挙前に十分な政策論争がなされないまま公約化され、それが本当に実現したといえる。

京畿道に2004年8月にはじめての英語村である「京畿英語村アンサンキャンプ」が設立され、その後次々と韓国各地に英語村が設立された。2011年度の調査では韓国全土で32の施設があることが確認されている（キム2011）。表1は2011年度の韓国の英語村の現況を示したものである。これらの中で、京畿道の「京畿英語村バジュキャンプ」と「慶尚南道のチャンニョン英語村」は自治体によって運営されているが、その他の英語村は民間によって運営されており、それぞれが地方自治体の援助を受けて経営を行っているため、かなり廉価な費用で参加できる。たとえば、イギリスのサマースクールに参加した場合、2週間で1500～2000ポンド（約23万円から30万円）かかる。それに航空券代がプラスされると40万円以上の費用がかかり、誰でも気軽に参加できるわけではない。しかし、本研究対象である「ソウル英語村ブンナプキャンプ」は2泊3日で70,000ウォン（約6300円程度）であり、さらに、日本の福島県にある英語村と同様の施設であるブリティッシュ・ヒルズは2泊3日で52,500円である。これらのことから海外のサマースクールや日本の同様の施設と比較してもかなり廉価であることがわかる。

表1 2011年度の韓国の英語村の現況

地域	英語村	設立した時期
ソウル (4)	ブンナンキャンプ	2004年12月
	スユキャンプ	2006年3月
	カナクキャンプ	2009年11月
	ノウオンキャンプ	2007年4月
釜山 (2)	プサンクルロポルピリリジ	2009年7月
	ササン国際化センター	2010年3月
大邱 (1)	大邱英語村	2007年12月
仁川 (2)	仁川英語村	2006年2月
	仁川ソグ英語村	2006年2月
京畿 (10)	京畿英語村アンサンキャンプ	2004年8月
	京畿英語村パジュキャンプ	2006年4月
	京畿英語村ヤンピョンキャンプ	2008年4月
	ソナン英語村	2005年12月
	アンサンファジョン英語村	2006年9月
	スウォン英語村	2006年12月
	イチョン英語村	2008年10月
	ハナン英語体験学習館	2009年3月
	オサンシ国際化センター	2009年6月
	クンボ国際教育センター	2009年9月
忠南 (2)	タンジン外国語教育センター	2005年7月
	チョンアン外国語教育院	2007年3月
全北 (2)	ムジュ国際化教育センター	2009年3月
	チョンジュ英語村	2009年5月
全南 (2)	モッポ英語村	2006年12月
	カンジン外国語タウン	2008年3月
慶北 (4)	アンドン英語村	2009年3月
	ヨンチョン英語タウン	2009年3月
	キョンサン英語村	2007年3月
	キョンジュシ英語村	2005年7月
慶南 (2)	チャンニユン英語村	2005年8月
	コジェシ英語村	2009年7月
済州 (1)	ジェジュシ英語村	2006年1月
合計	32	

注：本表はキム（2011）のもとに著者が翻訳し、作成したものである。

しかし、これらの英語村の多くは設置の初期費用が大きく人件費コストが高いが、受講費が安いと、財政赤字になっており、2007年には全国の英語村は総額で約210億ウォンの赤字を出したといわれている（樋口・木村2010）。また、設立当初の英語だけを使用するという理想とは程遠く、敷地内のレストランなどでは韓国語が使われており、英語村では英語が使われなくなりつつあるともいわれている（木村2010）。このように多くの問題ををはらんでいる英語村であるが、多くの初・中・高等学校が英語村を定期的に利用しており、様々な問題を抱えながらも「英語村」は韓国の英語教育において重要な役割を果たしているのではないかと思われる（カレイラ2012）。

IV. ソウル英語村ブンナプキャンプ

日本ではしばしばテレビ番組などで取り扱われるために、広大な敷地を持つ京畿道が経営している公的な施設である「京畿英語村パジュキャンプ」が有名であるが、韓国の大多数の英語村は民間で経営しており、また、規模もそれほど大きくなく多くの英語村は町の中にあるものが多い。また、プログラムの内容は自治体から補助を受けているため、自治体ごとに多少異なるが、多くの英語村が同じようなプログラムを提供している。そのようなことから一般的な英語村がどのようなプログラムを提供し、それに参加している児童がどのように評価しているのかを調べるために、本研究では韓国の首都であるソウルの英語村の一つであるヘラルドメディアによって運営されている「ソウル英語村ブンナプキャンプ」を選んだ。

「ソウル英語村ブンナプキャンプ」では正規授業の内容を学ぶ「正規プログラム」、低所得者の児童を対象とした「未来希望プロジェクト」、冬休みや夏休みなどの長期の休み期間に行われる「長期休暇プログラム」、平日の放課後に行う「放課後教室」、およびイギリスのサッカーのチームと連携した「少年サッカープログラム」が開催されている。ソウル市によって財政的な援助を受けているため、参加する児童は安い受講料でこれらのプログラムに参加できる。表2は4泊5日の小学生を対象にしたスケジュールである。

「ソウル英語村ブンナプキャンプ」で行われているプログラムはスポーツ、工作、料理、科学などを英語で学ぶイマージョン・プログラムが多い。そのような学ぶ内容に焦点をあてたプログラムでは、英語の言語形式の習得にのみに焦点が置かれていないため、英語自体に興味のある児童だけではなく、英語にはさほど興味がない児童に対しても、知的好奇心を刺激する情報を与えることができる（カレイラ・大久保・秋山・田邊2007）。

以下は「ソウル英語村ブンナプキャンプ」の教育方針である。

- ・ 日常の生活体験：海外旅行、留学や語学研修の時に触れる実際の状況を体験する（郵便局、警察署、病院）
- ・ 学校教育との連携学習体験：学校の教科学習内容を英語で学ぶ（新聞の編集、化学、地理学）
- ・ 文化／スポーツ体験：スポーツ、美術などの文化活動を通して、自然に英語を習得させる（ナンタ²、映画、ダンス、サッカー）

敷地内には5棟の建物があり、その中に体験室が50室（例：警察署、証券体験室、病院、郵便局、劇場、カラオケ、科学室、美術室、コンピュータ室、ヒップホップ体験室、放送局、ナンタ体験室、調理室、マジックルーム、銀行、出入国事務所、新聞編集室）、および宿泊施設が200室あり、収容人数は450名である。

² ナンタとは包丁、まな板などのキッチン器具を楽器として用いた公演のことである。
<http://www.eigomate.com/ukschools/index.html#junior>

表2 4泊5日のスケジュール

	月	火	水	木	金
7:00	到着	起床／洗面			
9:00-9:45		ジャーナリズム	ドラマ	マジック	科学
10:00-10:45	レベルテスト	ナンタ	アニメーション	テクノロジー	ダンス
11:00-11:45	ツアー	野球	サッカー	料理	ヨガ
11:45-13:00	フリータイム／ランチ				
13:30-14:15	映画	美容院	モデルメイキング	警察	新聞
14:30-15:15	映画	郵便局	ボックスオフィス	経済	閉会式
15:30-16:15	紹介	レストラン	図書館	IT	
16:30-17:15	ホームルーム				
17:15-19:00	自由時間／夕食				
19:00-21:00	夜の英語活動				
22:00	消灯				

以下に現在行われている授業のいくつかの例を示す。



図2 講堂：室内において様々なスポーツ活動を行う³。

³ 掲載されている写真はすべて「ソウル英語村ブンナブキャンプ」から掲載許可を得たものである。



図3 証券体験室：経済用語や市場の概念などを学習し、自分で株式を買ったり売ったりしながら自然に株式の投資を体験する。



図4 料理：インストラクターの英語の指示にしたがってクッキーなどを作る。



図5 マジック：インストラクターは黒いマントを着て手品師の恰好をし、英語を話しながら手品を行う。

インストラクターの多くは英語母語話者であるが、少数ながら韓国人もいる。なお、授業の中では英語母語話者も韓国人も英語のみを話している。

V. 本研究

1. 目的

本研究の目的は「ソウル英語村ブンナプキャンプ」のプログラムに参加した韓国の児童がこれらのプログラムをどのように評価しているのかを明らかにしていくことである。

2. 参加者および質問紙

本研究では2011年12月から2012年2月の冬休みの間に行われたキャンプに参加した韓国の初等学校の児童219名（男子108名、女子110名、性別不明1名）に各キャンプ終了後、質問紙調査を行った。内容はプログラムに参加した理由や満足度を問うものである（付録1を参照）。なお、質問項目はすべて韓国語で記載されており、ソウル市が毎年行っている評価項目を参考にして作成した。表3は参加した児童の学年別の人数である。

表3 学年別の人数

学年	人数
初等学校1年生	1
初等学校2年生	0
初等学校3年生	54
初等学校4年生	86
初等学校5年生	43
初等学校6年生	35

3. 結果

質問紙調査の結果は以下の通りである。なお、各項目において全体を219名としてそれぞれの回答の割合（%）を算出した。項目によっては全員が回答していないものもあるため、合計が100%に満たない項目もある。

項目1「『ソウル英語村ブンナプキャンプ』のプログラムに参加する主な理由は何ですか」に関しては、「英語が好きで面白そうなので」「英語の成績の向上に助けになりそうなので」という理由が半数以上を占めた（表4を参照）。

表4 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」プログラムに参加した動機

項目	人数	パーセント
英語が好きで面白そうなので	83	38
英語の成績の向上に助けになりそうなので	61	28
新しい友達を作るため	8	4
学校よりは気楽で面白そうなので	38	17
学校行事なので	27	12

項目2「『ソウル英語村ブンナプキャンプ』の参加を勧めた人は誰ですか」に関しては、4割以上の児童が自分で決めていることがわかる（表5を参照）。

表5 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」プログラムへの参加を薦めた人

項目	人数	パーセント
自分で参加を決めた	99	45
先生が薦めた	46	21
両親が薦めた	65	30
友人が薦めた	9	4
その他	0	0

項目3『ソウル英語村ブンナプキャンプ』の施設、職員の親切さ、教師およびプログラム内容などを全部考慮した時、『ソウル英語村ブンナプキャンプ』に対してどの程度満足しましたか』に関しては、7割以上の児童が「とても満足」「満足」と回答していた（表6を参照）。

表6 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」に対する全体的な満足度

項目	人数	パーセント
とても満足	92	42
満足	66	30
普通	43	20
不満	17	8
とても不満	1	0

上記の項目3において「とても満足」「満足」「普通」と回答した児童のみ項目4「良かったり、有益だった点は何ですか」に回答した。項目4において最も多かったのは「授業が面白かった」であり、ついで「英語の勉強に役に立った」「新しい友達と付き合ったりして親しく過ごした」であった（表7を参照）。

表7 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」の良かったり、有益だった点

項目	人数	パーセント
英語の勉強に役に立った	41	19
授業が面白かった	65	30
先生が親切だった	20	9
施設が快適で良かった	23	11
友達と親しく過ごせた	37	17
その他	13	6

上記の項目3において「不満」「とても不満」と回答した児童のみ項目5「嫌だった点や不満な点は何ですか」に回答した。少数の児童のみが嫌だった点や不満な点をあげていたが、最も多かったのが「先生が親切ではなかった」である（表8を参照）。

表8 嫌だった点や不満な点

項目	人数	パーセント
英語の勉強に役に立たなかった	1	0
授業がつまらなかった	2	1
授業の内容が難しかった	4	2
先生が親切ではなかった	6	3
他の生徒の学習の雰囲気が良くなかった	1	0
自由な時間が足りなかった	4	2
授業料が高い	1	0
その他	1	0

項目6『『ソウル英語村ブンナプキャンプ』のプログラムの期間の長さはどうでしたか』に関しては、6割以上の児童が「ちょうどよかった」と回答していた（表9を参照）。

表9 教育期間に対する満足度

項目	人数	パーセント
とても長かった	5	2
長かった	26	12
ちょうどよかった	138	63
短かった	34	16
とても短かった	16	7

項目7「プログラムのレベルはどうでしたか」に関しては、6割の児童が「ちょうどよかった」と回答していた（表10を参照）。

表10 プログラムのレベル

項目	人数	パーセント
とても難しかった	5	2
難しかった	20	9
ちょうどよかった	131	60
簡単だった	47	21
とても簡単だった	16	7

項目8「教材は私の英語のレベルにあっていました」に関しては、8割弱の児童が『ソウル英語村ブンナプキャンプ』の教材のレベルは適切であったと評価していた（表11を参照）。

表11 教材などに対する満足度

項目	人数	パーセント
とてもそう思う	124	57
そう思う	47	21
普通	34	16
そう思わない	7	3
まったくそう思わない	7	3

項目9「授業は面白く、わかりやすく行われました」に関しては、7割以上の児童が授業は面白く、わかりやすく行われたと評価していた（表12を参照）。

表12 授業の面白さ

項目	人数	パーセント
とてもそう思う	102	47
そう思う	58	26
普通	48	22
そう思わない	8	4
まったくそう思わない	3	1

項目10「他の生徒の授業態度や雰囲気は良かったです」に関しては、6割弱の児童が他の児童の授業態度や雰囲気が良かったと評価していた（表13を参照）。

表13 他の生徒の授業態度や授業の雰囲気

項目	人数	パーセント
とてもそう思う	71	32
そう思う	59	27
普通	48	22
そう思わない	24	11
まったくそう思わない	17	8

項目11「面白くて役に立った授業は何ですか」という質問に対しては、以下のような回答が得られた（表14を参照）。上位の回答に料理やサッカー、野球など動作をしながら英語を学べる活動が多くあげられた。

表14 面白くて役に立った授業

項目	人数
料理	35
サッカー	19
ボックスオフィス	15
野球	14
すべての授業	13
マジック	10
テクノロジー（プレイステーション）	10
ナンタ	9
フットボール	9
講堂	8
ドラマ	8
ヒップポップ	6
図書館	6
新聞	6
経済	4

項目12「『ソウル英語村ブンナプキャンプ』に参加する前は英語に対してどの程度関心を持っていましたか」に関しては、4割の児童が「普通だった」と回答していた（表15を参照）。

表15 参加前の英語に対する関心の度合い

項目	人数	パーセント
とても高かった	49	22
高かった	64	29
普通だった	88	40
低かった	12	5
とても低かった	6	3

項目13「『ソウル英語村プンナプキャンプ』に参加する前と比較した場合、英語に対する興味はどうなりましたか」に関しては、6割以上の児童が「ソウル英語村プンナプキャンプ」に参加後、英語に対する興味が高まったと回答していた（表16を参照）。

表16 参加後の英語に対する関心の度合い

項目	人数	パーセント
とても高くなった	39	18
高くなった	98	45
変わらない	69	32
低くなった	10	5
とても低くなった	3	1

項目14「『ソウル英語村プンナプキャンプ』のプログラムにまた参加したいですか」に関しては、8割近くの児童がまた参加したいと回答していた（表17を参照）。

表17 今後の参加意向

項目	人数	パーセント
はい	174	79
いいえ	45	21

項目15「『ソウル英語村プンナプキャンプ』を友人に勧めますか」に関しては、7割以上の児童が友人に勧めたいと考えていることが明らかになった（表18参照）。

表18 友人への「ソウル英語村プンナプキャンプ」の推薦意向

項目	人数	パーセント
はい	169	77
いいえ	50	23

4. 考察

本研究では韓国の「ソウル英語村プンナプキャンプ」に参加した児童が「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムをどのように評価したのかを明らかにするために、質問紙調査を行った。その結果、以下のことが明らかになった。第一に、表6、表7、および表12より7割以上の児童が「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムに満足しており、特に、授業が面白く、英語の勉強に役に立ったと感じていることがわかる。第二に、本プログラムに参加する前の英語に対する関心は4割の児童が「普通」と回答していたが、本プログラム終了後には6割以上の児童が参加後英語に対する興味が高まったと報告している（表15および表16を参照）。第三に、「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムを8割近くの児童がまた利用したいと考えており、

さらに、7割以上の児童が友人に「ソウル英語村プンナプキャンプ」を薦めたいと考えていることが明らかになった（表17および表18を参照）。これらのことから、本プログラムに参加した児童は「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムを面白く、また、英語の勉強に役に立つプログラムであると評価しており、さらに「ソウル英語村プンナプキャンプ」に参加したことにより彼らの英語学習に対する興味が高まり、今後も参加したいと思っいることが明らかになった。

では、なぜ参加した児童は「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムを高く評価し、本プログラムに参加することにより彼らの英語に対する興味が高まったと感じたのであろうか。以下ではその理由について検討していく。

第一に、表4からも明らかのように、本プログラムに参加した理由は「英語が好きで面白そうなので」「英語の成績向上に助けになりそうなので」が半数以上を占めており、さらに表5より明らかのように、参加を決めたのは4割以上の児童が自分で決めている。これらのことから「ソウル英語村プンナプキャンプ」に参加した児童の多くは、「ソウル英語村プンナプキャンプ」に興味を持ち、自主的に参加している児童が多いといえるであろう。すなわち、自主的に参加したことにより、積極的に本プログラムに取り組むことができ、その結果、彼らの英語に対する関心がより高まったのではないかとと思われる。

第二に、表14から明らかのように、本プログラムに参加した児童はサッカーや野球などのスポーツや料理などのように体を動かしながら英語を学ぶ活動を高く評価していた。特に、料理は出来上がった料理を食べることができるため、児童は高く評価したのではないかとと思われる。「ソウル英語村プンナプキャンプ」に限らず、韓国の英語村ではイマージョン・プログラムを取り入れており、英語自体を学ぶというよりも英語で何かを学ぶプログラムが多い。ところで、カレイラ他（2007）は日本の小学校で米に関することをゲームなどの活動を通して英語で学ぶ実践研究の結果を報告しているが、その中で、英語自体に興味のない児童であってもその教える内容に興味があれば、彼らの英語学習に対する動機づけを高めることができると述べている。本研究においても料理やスポーツなど児童が好む活動を取り入れたことにより、参加した児童は本プログラムを楽しみと評価したのではないかとと思われる。

一方、本プログラムでは料理やスポーツだけではなく、科学や社会など様々な活動を取り入れており、そのような活動を一番面白かったと評価している児童が少数ながらも見られた。このように参加した児童の全員が同じように料理やスポーツなどに興味を示すわけではなく、児童の中にはじっくり考えて静かに行う活動が好きな児童もいる。ゆえに、スポーツや料理などの動的な活動とともに座って静かに考える活動など様々なタイプの活動を取り入れたことにより、参加した児童の個人差にも対応することができたのではないかと推測できる。

VI. 結論

本研究では「ソウル英語村プンナプキャンプ」の韓国の小学生を対象にしたプログラム評価を行った。その結果、参加した児童の多くが「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムを面白く、英語の勉強に役に立つプログラムであると評価していた。さらに、「ソウル英語村プンナプキャンプ」に参加することにより、英語学習に対する興味が高まり、今後も参加したいと思っいることが質問紙調査の結果から明らかになった。このように参加した児童が「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムを高く評価したのは、様々な活動を取り入れており、

特に、料理やスポーツなど児童が喜びそうな活動などが多く、また、多くの児童が自主的に参加を決めているためであろうと考えられる。

ところで、上述したように日本にもブリティッシュ・ヒルズなど英語村のような民間で運営している施設があるが、韓国の英語村と比べると規模も小さく、自治体からの補助がないため、参加費用がかなり高い。また、韓国の英語村では近年日本をはじめとするアジア諸国の児童の受け入れを始めており、特に、日本からの受講者を受け入れる場合には同年代の韓国の児童も同じプログラムに参加することが多い。そのため、韓国の児童と共に授業を受け、また、寝食を共にしながら英語で交流することができる。このようなことから、今後日本においても韓国の英語村を英語学習のための短期留学施設の一つとして検討していくことができるであろう。しかし、韓国の児童と日本の児童では英語力や文化的背景など異なる部分も多い。ゆえに、韓国の児童のプログラムがそのまま日本の児童にあてはめることができるかどうかなどは今後調査していく必要があるであろう。

参考文献

<日本語文献>

- カレイラ松崎順子 2012年『韓国の英語教育とEBSの果たす役割』、名古屋:ブイツーソリューション。
- カレイラ松崎順子・大久保奈緒・秋山道子・田邊紗也子 2007年『内容重視の初等英語教育——「総合的な学習の時間」における国際理解教育』、*Language Education & Technology*, 44, 1-21頁。
- キムジョンス 2011年「比較論的考察を通じた韓国型英語村の研究」、『韓国比較情報学報』15, 129-158頁。
- 木村隆 2010年「韓国の英語教育政策—現状と展望(下)—その後の韓国『英語村』」、『英語教育』59(6)、66-68頁。
- 小林和美 2009年「『キログ・アッパ』になった韓国の父親たち——「早期留学」についてのインタビュー調査から」、『大阪教育大学紀要 第Ⅱ部門:社会科学・生活科学』57(2)、1-18頁。
- ソンチョンミ 2007年「小学生英語体験キャンプ事例研究」、『英語英文学研究』29, 143-169頁。
- 田中光晴 2008年「韓国における初等教育改革への取り組み——「世界化」政策の現状と展望 飛梅論集』、『九州大学大学院教育学コース院生論文集』8、83-98頁。
- チェテウ 2011年『2009年早期留学関連海外留学生出入国および帰国学生特別学級運営の現況』、<http://www.mest.go.kr/web/268/ko/board/view.do?bbsId=35&boardSeq=22423> (2012年2月1日参照)。
- 樋口忠彦 2005年「諸外国における小学校外国語教育」、樋口編『これからの小学校英語教育——理論と実践』、東京:研究社、1-33頁。
- 樋口謙一郎・木村隆 2010年「韓国の「英語村」——現状と展望』、『中部地区英語教育学会紀要』39、135-140頁。
- 李瓊 2007年「『キログ家族』から見た韓国家族の現在』、『アジア研究所紀要』34、217-232頁。

<外国語文献>

- Im Hee-Joo 2011. "Needs Analysis for Effective English Village Curriculum in Korea", *Korean*

付録1 実施した質問紙（韓国語より翻訳）

1. 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」のプログラムに参加する主な理由は何ですか
 - ①英語が好きで面白そうなので
 - ②英語の成績の向上に助けになりそうなので
 - ③新しい友達を作るため
 - ④学校よりは気楽で面白そうなので
 - ⑤学校行事なので
2. 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」の参加を薦めた人は誰ですか
 - ①自分で参加を決めた
 - ②先生が薦めた
 - ③両親が薦めた
 - ④友人が薦めた
3. 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」の施設、職員の親切さ、教師およびプログラム内容などを全部考慮した時、「ソウル英語村ブンナプキャンプ」に対してどの程度満足しましたか
 - ①とても満足
 - ②満足
 - ③普通
 - ④不満
 - ⑤とても不満
 (①②③と答えた人は4へ ④⑤と答えた人は5へ)
4. 良かったり、有益だった点は何ですか
 - ①英語の勉強に役に立った
 - ②授業が面白かった
 - ③先生が親切だった
 - ④施設が快適で良かった
 - ⑤友達と親しく過ごせた
 - ⑥その他
5. いやだった点は何ですか
 - ①英語の勉強に役に立たなかった
 - ②授業がつまらなかった
 - ③授業内容がとても難しかった
 - ④先生が親切ではなかった
 - ⑤他の生徒の雰囲気が悪くなかった
 - ⑥自由な時間が足りなかった
 - ⑦受講料が高かった
 - ⑧その他
6. 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」のプログラムの期間の長さはどうでしたか
 - ①とても長かった
 - ②長かった
 - ③ちょうどよかった
 - ④短かった
 - ⑤とても短かった
7. 授業のレベルはどうでしたか
 - ①とても難しかった
 - ②難しかった
 - ③ちょうどよかった
 - ④簡単だった
 - ⑤とても簡単だった
8. 使用した教材は私の英語のレベルにあっていました
 - ①とてもそう思う
 - ②そう思う
 - ③普通
 - ④そう思わない
 - ⑤まったくそう思わない
9. 授業は面白く、わかりやすく行われました
 - ①とてもそう思う
 - ②そう思う
 - ③普通
 - ④そう思わない
 - ⑤まったくそう思わない
10. 他の生徒の授業態度や雰囲気は良かったです
 - ①とてもそう思う
 - ②そう思う
 - ③普通
 - ④そう思わない
 - ⑤まったくそう思わない
11. 面白くて役に立った授業は何ですか
12. 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」に参加する前は英語に対する関心はどの程度持っていましたか
 - ①とても高かった
 - ②高かった
 - ③普通だった
 - ④低かった
 - ⑤とても低かった
13. 「ソウル英語村ブンナプキャンプ」に参加する前と比較した場合、英語に対する興味はどうなりましたか
 - ①とても高くなった
 - ②高くなった
 - ③変わらない
 - ④低くなった
 - ⑤とても低くなった

14. 「ソウル英語村プンナプキャンプ」のプログラムにまた参加したいですか

①はい ②いいえ

15. 「ソウル英語村プンナプキャンプ」を友人に勧めますか

①はい ②いいえ